

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2672000110		
法人名	株式会社うえもり		
事業所名	グループホームふれあい A棟 【外部評価結果は2ユニット総合評価結果である】		
所在地	京都府与謝郡与謝野町字明石652-1		
自己評価作成日	令和6年3月1日	評価結果市町村受理日	令和6年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiqvosyoCd=2672000110-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人ぱ・まる
所在地	大阪府堺市堺区三宝町二丁目131番地2
訪問調査日	令和6年3月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「経営理念」が、「人としてのありたい姿を支え続け、一人ひとりの生活を穏やかなものにする。」とあり、その中でも、「福祉のうえもり～もう一度、笑顔の日常。」として、常に笑顔で、周囲を笑顔にし、いつも優しく落ち着いた行動することで、みんなを安心させ、互いに想いを共有しあい、本当にうれしい気遣いを追求し、誰にとっても居心地のいい場を作り、他の人の誇りを大切に、自ら誇れる行動をし、全ての人・物事に感謝の気持ちを持ち続けるようにする。…このことを目標に、会社のブランドステートメントを作成し、内容を職員全員で共有できるよう、努力している。GHふれあいでは、この理念をもっと具体的に考え、「普通の暮らしと一緒に楽しむ」「生活そのものがリハビリ」「家庭生活の延長」となることを重点課題として取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍の制限緩和に伴い、外出機会やイベント・行事の、再開・拡充が開始されており、利用者の生活の楽しみや活動範囲・内容の拡充に繋がっています。近隣への少人数でのドライブ等も行われ、季節や外部と触れあう機会が設けられています。利用者を笑顔に出来る支援に重きを置かれており、生活の中の笑顔、暮らしとしての笑顔、利用者が得る事ができるよう心がけられています。利用者個々の今までの人生を大切にされ、それらを踏まえた支援に繋げることで、利用者が施設を利用して良かった、ここで暮らして良かったと思える支援を目指されています。地域に向けた、認知症カフェを開催されており、行政とも連携し、地域ニーズを踏まえた、地域貢献事業に取り組まれています。実習生やインターンシップの学生等の受入が行われており、地域貢献、利用者と外部の交流機会が確保されることで、利用者も大変喜ばれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおお むね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケア理念をホーム玄関に掲げ、名札の裏にも記載している。また、月1回の職員会議の中で、理念の確認と共有に努めている。法人のブランドステートメントも個々に持ち、社内研修にて理念の確認をしている。	法人としての理念と共に、施設としても地域を大切に、地域での暮らしを大切に、利用者が楽しく明るい生活が継続していける事に重きを置いた支援の実践を目指されています。利用者の願いや思いを実現できるよう、安全とのバランスにも配慮しながら、可能な範囲での、利用者の思いの実現に繋がられる支援を考えられています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区の自治会に加入している。本来であれば、地域の祭りに参加している(神楽にも来てもらっている)。また、地域の文化祭に、作品(貼り絵等)を出品してるが、今年も中止。地区で行われている防災訓練には参加できた。	従前から、地域の自治会に加入されており、地域の祭事や文化祭等のイベントや行事に参加されていましたが、本年度は部分再開に限られ、地域として全ての再開には至りませんでした。認知症カフェの開催等が行われており、行政と連携した地域に向けた啓発活動等も行われています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が相談型認知症カフェをしているため、地域の方々から随時、相談を受ける機会が多い。また、スタッフもキャラバンメイトとしてサポーター養成に取り組んでいる。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	規定通り、2か月に一回(奇数月)運営推進会議において、サービスの状況や評価について話し合う場を持っており、その会議の結果を職員会議の場において報告し活かしている。	コロナ禍の制限緩和に伴い、地域の自治会・民生委員・行政関係者と、利用者家族を主体とした運営推進会議が対面によって開催再開されています。運営推進会議では、地域への理解の促進や、地域と施設間の、相互情報共有・情報交換がなされており協働で取り組んでいくことの拡充や相互補完へと繋がられています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	福祉課(包括含)の担当者に、2か月に一回の運営推進会議に出席してもらっている。また、管理者が認知症地域支援推進員、キャラバンメイトのコアメンバーとして1か月に一回以上は福祉課との交流がある。推進員のグループLINEもある	行政とは、運営推進会議を中心とした、定期的な情報共有・情報提供が行われています。地域ケア会議への参加や、認知症啓発活動での連携協働があります。利用者の生活にかかる行政との調整や相談にも、利用者個々の事情に応じた必要性で、取り組まれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	このホームを運営し始めたときから、玄関の施錠や身体拘束のないケアに取り組んでおり、京都府からの実態調査をもとに、委員を中心に職員会議で確認したり、講習会(社内研修)を行っている。	法人理念・施設理念として、利用者行動を制限したり、奪うことを排除する支援の提供が目指されており、利用者が自由に行動し、自分の生活リズムで動き、活動できる環境釣りに努められています。適正化にかかる委員会が3ヶ月毎に開催されています。年2回の拘束並びに虐待に関する施設内研修が開催されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修のシラバスでも年に2回取り入れ、虐待について研修をし、虐待防止に取り組んでいる。スタッフがストレスを一人で抱え込まないように個人的な話し合う場、相談できる窓口を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修にて、意思決定権の説明やACPIについて理解を深めている。権利擁護(成年後見制度)について説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前(契約の際)には、時間をとって、できる限り分かりやすく、説明している。また、解約に関しても、その度状況に応じ話をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や会話から、その想いを察する努力をして、利用者のしたいことが叶えられるよう、心掛けている。また、職員会議の中でご家族の要望を共有し合う場を設けている。2008年より、介護相談員の受け入れ(今年も無)している。	家族等が積極的に運営推進会議に参加できるように、開催曜日等に配慮されます。日常の電話連絡や来訪時に、家族等が話しやすい雰囲気ときっかけ作りを心がけられており、家族等の意向把握に努められています。利用者の希望や意見を踏まえた、外出先の拡充や娯楽の拡充等が、行われています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング・職員会議などで、意見を聴くようにしている。また、ユニットリーダーが直接代表者に意見できるように一カ月に一回話し合いの場を設けている。民間委託(メンタルヘルス相談)で職員が困ったときに外部に相談できる体制がある。	ユニットリーダーを中心に、職員からの意見等の把握がなされており、検討された内容によって、意見や提案は直接法人代表者にも伝えられる仕組みがあります。職員の意見を踏まえ、施設ハードの改善や備品の改変に繋がられた事例が確認出来ました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から会議等で、悩みなど聴けるようにしていたり、また個人面談を管理者、マネージャー・リーダーが担当して実施している。そのうえで、ご利用者の状況・職員の状況に応じ勤務体制や業務の見直しを検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の研修には全員を対象としていて、積極的に参加し感想シートの提出を義務付けている。個人面談等で、職員一人ひとりが自らの目標をもって働いていけるよう助言している。法人が委託しているオンラインセミナー（IDO）も受講できる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に1回、地域ケア会議に参加し交流している。GH連絡会は今年度は未開催だったため、町内のGH(3か所)の交流はLINEを通じてしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に事前面談をして、出来る限り顔を合わせながら生活状態の把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯や、想い、悩みなどゆっくりと聴けるよう配慮し、管理者職員間で共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当のケアマネと連絡をとりあい、また、できる限り柔軟な対応ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者と散歩に出かけたり、ドライブに出かけたり、一緒に作ったご飯を「おいしいね」と一緒に食べたり、想いを共にしながら過ごしている。常に寄り添う努力をしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを常に共有できるよう面会時出来る限り、こちらから要望を聴くように努めている。また、運営推進会議に出席していただけるように全家族に案内を送り、出欠に関わらず要望を聞くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの地域からの働きかけや、ご家族の要望等には応えるようにして、継続できるように支援している。例えば、通いなれた美容院や、歯科医院、かかりつけ医を変えないなどができるように支援している。	地域の社会資源の活用を大切にされており、馴染みの店や行きつけの場所等を継続して利用できるよう配慮されています。コロナ禍の制限緩和に伴い、地域の社会資源活用の再開が行われています。家族等との外出や外泊等、家族交流も再開拡充されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活全般（調理・洗濯など）において、利用者同士が、積極的に自分たちで行えるように、さりげない配慮を心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談にはいつも応じている。ホーム側としては、いつでも支援できる体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意志の疎通が可能な状況下においては、できる限り本人の希望に沿えるようにしている。また、意志の疎通が困難な方であっても、仕草や行動から、その思いを汲み取ったり、ご家族に情報をいただいたりしている。	利用者個々が発出する、言葉や表情、動作等から、利用者自身の思いや意向、意思の推測に繋がられるよう、心がけた支援の提供に努められています。利用者が発した意思・意向は可能な範囲で実現に繋げ、不自由・不利益を感じない生活環境の提供となるよう配慮されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用の最初には、ご家族や本人などから、聞き取りをしている。利用後も、疑問が出てくれば、常に問い合わせさせてもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できること・できないことなどを把握し、ケアプランの見直し時にも、随時ミーティングや会議などで確認するよう努めている。一日一回バイタルチェックしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議の中で意見交換し、ご本人の思いを尋ねつつ、さらに関係者(ご家族など)には面会時に、意見・要望を聞き、ケアプランに反映できるよう努力している。	アセスメントと利用者の日常の支援の様子を踏まえ、職員間での話し合いによって、利用者のやりたいこと、楽しめる事を大切に、介護計画の策定に繋がるよう努められています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録があり、出勤している職員は1人ずつ、それぞれの個別記録に毎日記載して、気になることはミーティングや申し送りでも共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自宅への送迎や通院など要望には応じれるように努力している。ただ、現状は人財不足により、ご家族に同行を依頼することもある。また、空床の際のショートステイの体制を整備したので、法人のデイの利用者が利用できる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が地域で安心して暮らせるように、自治会に加入して、区民たより等で情報交換をしている。運営推進会議を通して、区長さん民生委員さんとの交流もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>伊藤内科医院が協力医療機関となっており、2週間に1度、往診してもらっている。</p> <p>また、ご本人の要望により在宅から診てもらっているかかりつけ医に継続してもらうこともある。</p>	<p>かかりつけ医は、利用者・家族の意見意向を踏まえた選択決定が行われています。施設の協力医療機関利用の際は、2週間に1度の往診が行われています。希望する利用者には歯科往診による対応も行われています。整形外科・皮膚科の不定期往診があります。</p>	
31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>近くの訪問看護ステーションと契約を結び、医療の必要な利用者には、健康管理をおこなってもらっている。また法人内のデイの看護師・理学療法士、鍼灸院の鍼灸師にも相談できる体制がある。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院の際には、入院のダメージを少しでも防ぐため、管理者やスタッフが病院と情報交換し、入院が長期化しないよう努めている。(入院中の面会を基本としながら、地域医療連携室と情報共有をしている)</p>		
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に、最初の確認をしている。その後、本人や、ご家族の気持ちを大事にしつつ、随時、ご家族、医師、管理者が話し合いをし、職員とも確認しながら進めている。協力医療機関、訪問看護に、常時、急変時の対応もしてもらっている。</p>	<p>利用開始時には、重度化と終末期に向けた説明が行われています。看取り対応が行われており、実績があります。看取りの際は、利用者本人の意向を踏まえた上での主治医と家族による話し合いが行われ、終末期支援に取り組まれています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>社内研修にて、応急手当や初期対応について、座学はおこなっている。その場その場で、リーダーやマネージャーが対応を指示している</p>		
35	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>運営推進会議にて地域の方々の協力が得られるよう働きかけている。防災訓練も定期的に行なっている。(現状、年2回)</p>	<p>BCP(事業継続計画)の策定が進行しています。年1回の地域地震訓練にも参加されており、地域の一員として参加されています。3日分目安の飲料水・食品・消耗品の備蓄品が用意されています。備品を含めた備蓄品の整備拡充が進行中です。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや対応には、十分に周囲にも配慮し支援することを心がけている。また、個人記録は鍵付きのロッカーに保管している。(笑顔で！を目標にしている)	利用者個々の尊厳維持のため、居室への出入りや、声かけにも配慮されています。利用者が、楽しく、明るくすごして頂ける雰囲気作りと言葉かけを大切にされています。日常支援の中で、利用者間で違和感や羞恥心を生じる可能性があるには、職員が速やかに把握対応出来るように努められています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いろいろな生活の場面で、できる限り自分で選択してもらえるよう、声掛けや参加できるような役割作りなどしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活(みんなで助け合っ)を主体にはしているが、できる限り一人ひとりの生活も、状況に応じ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望があれば取り入れている。お化粧品をしている方がおられる。希望の美容院に行かれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に応じ、積極的に食事作りに参加してもらい、協力してできた達成感と共に食事を味わえるよう努力している。旬なものを使ったり、季節ごとの食事を楽しんでもらっている	コロナ禍の制限緩和に伴い、行事食・イベント食・食事レクリエーションの再開拡充が行われています。食事レクリエーションでは、家族等の参加もあります。食事メニューは事前に固定することなく、旬の物、手近にあるものを踏まえ、利用者のニーズ・希望を大切に内容となるよう配慮されています。朝食の主食は、パンとご飯の選択が可能です。利用者の生活能力・運動能力維持のため、利用者の能力に応じた食事準備や配膳、片付け等が行われています。地域の作物を使うことを大切にされており、同時に季節感を感じて頂ける機会の創出にも繋がられています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通して、できる限り多くの食材を、摂取してもらえるよう配慮している。また水分摂取に関しては、気になる利用者にはこまめに摂取してもらったり、細かく水分量の記録をつけるよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前、歯磨きの声掛けをしたり、能力に応じて職員が介助を行なっている。義歯も洗浄してもらえるよう声掛けをしている。また、協力医療機関との連携体制が整い必要に応じ往診がある。口腔ケアの指導も受けて実践している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛けの工夫など、一人ひとりの状態に合わせて自立に向けた個別の支援計画を立てて実施している。	トイレでの排泄継続を大切にされており、排泄自立の維持のため、タイミング等も踏まえ、自信喪失に繋がらないよう適切な誘導や、きっかけ作りとなるよう努められています。声かけによって排泄時の羞恥心に繋がる事が無いよう、かける言葉の選択やタイミングに配慮されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	メニューの中に便通に良い食品を取り入れるように工夫をしている。(乳製品、繊維質の多い野菜など)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴したいという希望があれば、出来る限り入浴してもらえるようにしたいが、現状は人財不足により施設側の都合で入ってもらっていることが多い。また入浴剤の使用して気持ちよく入れるようにしている。	予定入浴が基本ですが、利用者の希望を大切にしたい、柔軟な入浴タイミング・時間の提供を心がけられています。入浴時は、脱衣着衣時を含め、個別スペースの確保を行う事により、羞恥心への配慮が行われています。生活能力維持のため、入浴自立が保てるよう配慮されています。入浴が困難な場合には、清拭等で対応し、清潔保持に留意されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて居室のベッドで昼寝をしてもらっている。また、夜に寝付きにくい時には、話を聴いたり何か食べてもらったりして落ち着いて眠れるように工夫している。また定期的にシーツ交換を実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容のわかる処方箋を保管して、いつでも把握できるよう心がけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に合った役割を、出来る限り持ってもらったり、カラオケや散歩など気分転換にできるよう支援している。施設向かいにあるデイサービスに行き交流もされる方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物など一人ひとりが楽しめる外出支援に努めている(現在は散歩くらい)。また、ご家族と一緒に外出が楽しめるよう情報提供や支援に努めている。中庭にプランター野菜を育てていて、水やり、収穫できる。	コロナ禍の制限緩和に伴い、日常の散歩範囲や機会の拡充、家族等との外出等が、再開・拡充されています。車を利用した少人数での近隣へのドライブ等も行われており、利用者の気分転換や季節に触れる機会の拡充が行われています。	コロナ禍の制限緩和に伴い、従前のような、外出や外食等の再開拡充に期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームで預かっており、希望に応じて、随時、買い物支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	随時、希望があればご家族と相談・調整しながら、電話(携帯電話使用される方もあり)を掛けて話ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先には季節の花を飾り、七夕やクリスマスの飾りつけをしている。食堂ではその場で調理などが行なえるように配慮し、味噌汁や焼き魚の焼ける匂いが感じられるように工夫している。また、室温設定にも気を付けている。	利用者個々がその時の気分や雰囲気でも過ごしやすい場所を選べるよう、フローリングと畳の空間があり、ソファやテーブル、椅子等が多めに用意されていることから、利用者個々が、自由に過ごせる空間作りに配慮されています。壁面には、利用者や家族等の作品や、利用者の思いのある装飾品等が配備されています。菜園活動も取り入れられており、利用者の自立維持と楽しみにも繋がられています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先にベンチを置いたり、庭先にイスがあつて、自由に出入りできるようにしている。ホーム内には、ユニットAに居間がありゆっくり過ごせるソファが置いてある。	/	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居する際に、その必要性をご家族に理解いただき、馴染みの物の持ち込みを、積極的にしてもらっている。(小さい引っ越しをする感覚でとお願いをしている)		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前に表札あり。また、利用者が生活しやすいよう、手すりを設置したり、危険なもの以外は自由に使ってもらえるように配慮している。	/	